

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究B

研究期間：2007～2009

課題番号：19320112

研究課題名（和文） 植民地期東アジア民衆諸宗教の伝播と交流～情報メディアの分析を中心に

研究課題名（英文） Propagation and Interexchange of the East Asian Popular Religions in the Age of Colonial Era : Analysis on Informational Medias.

研究代表者

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：30179618

研究成果の概要（和文）：

本研究は、近代以降、東アジア諸地域で活発な活動を展開した民衆宗教教団によって作成され、各地文書館・図書館に埋もれている雑誌・パンフレット等を掘り起こして検討を加え、その歴史的役割に新たな光を当てたものである。その結果、近代以降人やモノの移動が活発化するにつれ、民衆諸宗教が地域・国家を超えて広がりを見せたこと、植民地地域においては民衆宗教がナショナリズム運動と深いかわりをもったこと、「五教帰一」論など諸宗教の融合を主張する宗教的なユニバーサリズム論が登場したこと、などが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

This project shed light on the role of the new popular religions in modern East Asia by analyzing the contents of their periodicals and pamphlets which are reserved in many archives and libraries. By this research, we made clear that these religions spread to many countries crossing the border, had close relations with the nationalistic movements during the colonial era, and some religions claimed the need of the unification of all the world religions, especially, Confucianism, Taoism, Buddhism, Islam, and Christianity.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,900	1,170	5,070
2008年度	4,800	1,440	6,240
2007年度	5,700	1,710	7,410
年度			
年度			
総計	14,400	4,320	18,720

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：基盤研究B

キーワード：民衆宗教、世界紅卍字会、カオダイ教、先天道、同善社、「五教帰一」論、大本教、齋教

1. 研究開始当初の背景  
従来、中国・台湾・ヴェトナム等の東アジア

地域の宗教運動に対する研究はもっぱら一  
国史研究の枠内で行われてきた。中国におい

ては、宗教結社や義和団などの民衆運動の展開が詳細に検討され、東南アジア地域においては華人の宗教運動が議論されてきた。しかし、18～19世紀以降の東アジアにおいて人やモノ、情報の移動が活発に繰り広げられていたことが明らかになりつつある現在、宗教運動の研究においても、一国史という枠組みを超えて域外地域への諸宗教の伝播と土着化、さらには諸地域間の交流に目を向けることが必要になっているといえよう。

とりわけ近年、中国と周辺諸国とのボーダーレス化が急速に進展し、従前にもまして人的、文化的交流が緊密化している。こうした状況の祖型ともいえる状況が生まれたのは、近代の東アジアにおいてである。この時期に、たとえば日本の大本教と中国の紅卍字会との間に緊密な交流が生まれ、中国の扶鸞文化の影響下にヴェトナムのカオダイ教が勃興するなど、東アジア諸地域間において、宗教者同士が緊密に交流し合い、諸宗教が相互に影響を与えあう現象が生まれていた。しかし、こうした相互伝播・交流の側面に着目した研究はこれまでなされてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究においては、東アジアの中核地域で形成され、とりわけ近代東アジアの諸地域に普及・定着していった民衆諸宗教に着目し、その地域間交流の実態を明らかにすることにつとめる。そのために、近年公開され始めたアーカイブズ史料の積極的利用をはかる。中国「旧満洲」や上海・重慶等旧租界地、日本統治下の台湾、フランス植民地下のヴェトナムにおいては、宗教者を含めた人の移動に対するコントロールが行われていたこともあり、宗教者・宗教関連メディアの広域移動を文書史料によって追跡することがある程度可能となる。

その上で情報メディアに対する分析を行う。とくに雑誌やパンフレットは近代に登場した重要な宣伝媒体であり、そこでの論説・記事は宗教団体の主張や時代・世相解釈を知る上で貴重な材料である。これら雑誌・パンフレット類の制作主体を明らかにしつつ、詳細な解題を作成することによって、民衆宗教団体の「近代」への適応状況及び近代において民衆宗教団体が果たした役割を検討することを目指した。

## 3. 研究の方法

上記の課題を進めるため、主として以下の方法に基づいて研究を進めた。

### (1) 海外文書館・図書館等における史料調査

#### ①2007年度：

フランス・パリのギメ美術館、フランス陸軍省文書館（研究代表者武

内房司）、台湾・国史館及び中央研究院近代史研究所档案館（研究分担者菊池秀明、研究協力者張士陽（早稲田大学））、

中国国家図書館・吉林省档案館・中国第二歴史档案館（研究分担者孫江）、ヴェトナム・ホーチミン社会科学院社会学研究所、ホーチミン政治学院宗教研究所（研究分担者今井昭夫）、広西師範大学歴史旅遊系（研究分担者並木頼寿）、香港中文大学図書館・香港大学図書館（研究協力者倉田明子（学振特別研究員））、上海市档案館・上海市図書館（研究協力者宮田義矢（東京大学大学院））、中国重慶市档案館・重慶市図書館・北碚区図書館、大足県档案館、大足県図書館および成都の四川省図書館（研究協力者小武海櫻子（学習院大学大学院））。

#### ②2008年度：

ヴェトナム・漢喃研究院等（武内房司、今井明夫）、中国・上海市档案館、上海市図書館（孫江）、台湾国史館分館（張士陽）、中国国家図書館・北京市档案館（宮田義矢・小武海櫻子）、香港・中文大学図書館、中国・中山大学図書館（倉田明子）。

#### ③2009年度：

台湾・国家図書館、淡江大学図書館、成功大学図書館（連携研究者胎中千鶴）

### (2) 海外研究者を交えた共同研究会の開催：

#### ①2008年度：

中国人民大学副教授曹新宇・山東大学教授劉平・神奈川大学名誉教授小林一美各氏を招聘し、「中国民衆宗教運動史研究の現在」と題するミニ・シンポジウムを開催した（2009年3月6日、山梨県本栖寺）。

#### ②2009年度：

オランダ・ライデン大学中国学研究所教授バレンテ・テア・ハーレ氏による講演会を開催した（2009年5月17日、学習院大学）。

### (3) 民衆宗教団体への訪問調査：

2008年3月10日、プロジェクトメンバーで京都・亀岡の大本教本部教学研鑽所を訪問し、大本教本部に残されている諸資料を閲覧、世界紅卍字会等の東アジア宗教諸団体との交流事情を調査した。

## 4. 研究成果

上記各国文書館・図書館等における史料調

査をつうじて、以下の事実が明らかとなった。

(1) 中国においては民国時期に民衆宗教団体によって多くの雑誌が刊行されるなど、雑誌という広域流通を可能とするメディアをつうじて近代の時代状況に即した布教活動が展開していた。

(2) 中国の世界紅卍字会と日本の大本教、ヴェトナム・カオダイ教と大本教とに間に提携関係が樹立されたことに象徴されるように、これら民衆諸宗教の間で地域・国家を超えた密接な交流が生まれていた。

(3) 民衆宗教は清末・民国期の同善社や明達慈善会のように慈善事業を推し進めることによって、あるいはヴェトナムの善壇運動や宝山奇香教、カオダイ教などのようにナショナリズム運動に積極的にかかわることで、在地社会において社会的認知を獲得していた。

こうした史料調査の成果を踏まえ、2009年度には、近代東アジアの民衆宗教史研究で優れた研究を行っているシンガポール国立大学教授プラセンジット・ドゥアラ、ヴェトナム南部持続発展研究所研究員チャン・ホン・リエン、香港・中文大学准教授游子安、台湾・南台科技大学准教授王見川各氏を招聘し、近代において、東アジアにおいて地域横断的な布教活動を展開した民衆諸宗教に関する国際シンポジウム「越境する近代東アジアの民衆宗教～移動・交流・変容」を開催した(2009年10月17日、学習院大学)。そこでの研究報告・コメントを基礎として、研究分担者・連携研究者・研究協力者がプロジェクト期間中に蓄積してきた研究成果を合わせて、明石書店より、論文集『越境する近代東アジアの民衆宗教～中国・台湾・香港・ベトナムそして日本』を刊行した。また、この論文集には、プロジェクトで取り組んだ民衆宗教団体の発行した宗教雑誌の解題を盛り込んだ。

以上のように、従来、宗教結社ないしは秘密結社として否定的に扱われてきた民衆宗教が、近代東アジア世界において移民社会や植民地状況において生起するさまざまな諸問題に積極的に対応し、社会に定着していったことが明らかとなった。

ただ、これらの民衆宗教諸団体が果たした社会的役割を一層明らかにするためにも、各地で展開した教育事業・慈善事業等の具体相についてさらなる検討が加えられることが必要となる。今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

- (1) 今井昭夫、ベトナム・ナショナリズムにおける「民族」とネーション、久留島浩・趙景達編『国民国家の比較史』(有志舎)、査読無、2010、137-160。

- (2) 今井昭夫、ベトナム南部ベンチエー省でのベトナム戦争一元ベンチエー省隊・参謀長ファン・ディン氏へのインタビュー、東京外大東南アジア学、査読無、15巻、2010、69-81。
- (3) Kurata, Akiko, The Catholic Church under Japanese Occupation, Ha, Louis ed., History of Catholic Religious Orders and Missionary Congregations in Hong Kong, Vol.1, Centre of Catholic Studies, HKCU, 2009, pp.274-303、査読無
- (4) 武内房司、中国のキリスト教、高柳俊一・松本宣郎編『キリスト教の歴史 2』(山川出版社)、査読無、2009、210-227。
- (5) 今井昭夫、ベトナムにおける『民族』概念とナショナリズム、国民国家の比較史的研究プロジェクト『ハノイ・シンポジウム ベトナムにおける国家と民族』(人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館)、査読無、2009、82-91。
- (6) 宮田義矢、坐功による救劫～道院・世界紅卍字会の救劫論、東方宗教、査読有、114号、2009、24-43
- (7) 宮田義矢、中華民国期中国における新宗教の動向、国際宗教研究所編『現代宗教 2009』秋山書店、査読無、2009、265～284
- (8) 武内房司、清代貴州のカトリックと民間宗教結社、細谷良夫他編『清朝史研究の新たな地平～フィールドと文書を追って』山川出版社、査読無、2008、213-238
- (9) 武内房司、中国民衆宗教の伝播とヴェトナム化～漢喃研究院所蔵諸経巻簡介、板垣明美編『ヴェトナム～変化する医療と儀礼』春風社、査読無、2008、179-207
- (10) 武内房司、ヴァンサン・レップと天主教本土化運動、改革・変革と中国文化・社会・民族(日本評論社)、査読無、2008、47-61
- (11) 並木頼寿、清末政治社会変革論と日本、改革・変革と中国文化・社会・民族(日本評論社)、査読無、2008、39-46。
- (12) 菊池秀明、洪秀全の挫折と上帝教～档案史料からみた太平天国前夜の広東社会、東洋文化研究、査読有、10号、2008、137-171
- (13) 菊池秀明、動乱の時代の幕開け～太平天国前夜の広西における下層移民と天地会系結社の活動、アジア文化研究、査読無、34号、2008、1-48
- (14) 今井昭夫、20世紀初頭のベトナムにおける開明的儒学者たちの国民国家構想～アジアの国民国家構想～近代への投企と葛藤(久留島浩・趙景達編)(青木書店)、

- 査読無、2008、149-188
- (15) 今井昭夫、東外大オーラルアーカイブと私のベトナム戦争聞き取り調査、歴史と地理、査読無、606号、2008、24-30
- (16) 孫江、作為他者的『洋教』-關於基督教与晚清社会關係的再解釈、西学与清代文化(黄愛平、黄興濤主編)(中華書局)、査読無、2008、201-213
- (17) 小武海櫻子、清末四川の鸞堂と宗教結社～合川会善堂慈善会前史、東方宗教、査読有、111号、2008、50-71.
- (18) 今井昭夫、ベトナム中部クアンナム・ダナン在住退役軍人の戦争の記憶、東京外国語大学論集、査読無、75号、2007、305-325
- (19) 孫江、陝北高原の赤い星-革命、哥老会と地域社会、立命館経済学、査読無、56巻3号、2007、396-424
- (20) 孫江、増上寺的香堂～1933年東北青年代表団訪問日本、南京大学学報、査読有、2007年3期、93-102
- (21) 倉田明子、『資政新篇』再考-19世紀中期の中国における「キリスト教的近代化」の模索、中国 21、査読無、28号、2007、145-162

[学会発表] (計 10 件)

- (1) 小武海櫻子、民国初期宗教結社と城市的慈善事業、第二回中国秘密社会史国際学術討論会、2009年8月18日、中国山東大学
- (2) 小武海櫻子、同善社慈善事業、民間儒教与救世団体国際学術討論会、2009年6月9日、台湾・仏光大学歴史学系暨研究所
- (3) 倉田明子、太平天国の香港・上海における「開港場知識人」の誕生～洪仁玕とキリスト教との関わりを中心に、北陸史学会、2008年11月30日、石川県歴史博物館
- (4) 武内房司、中国近代の民間宗教結社とキリスト教～対立の構図を越えて、史学会シンポジウム「信仰における他者～異宗教・異宗派の受容と排除の比較史論」、2008年11月8日、東京大学(本郷)
- (5) 宮田義矢、静坐と慈善～中華民国期の道院世界紅卍字会を例に、日本道教学会、2008年11月8日、駒沢大学
- (6) 武内房司、ヴェトナム国民党と雲南～滇越鉄路と越境するナショナリズム、東洋史研究会、2008年11月3日、京都大学文学部
- (7) 孫江、在中国發現宗教～日本關於中国民間信仰結社之研究、漢学研究与中国社会科学的推進、2008年9月27日、浙江大学

- (8) Sun Jiang, “Continuity” and “Discontinuity” : The Narratives of Huang Ti in the History Textbooks During the Early 20th Century, CRITICAL HAN STUDIES CONFERENCE & WORKSHOP, April 25-27, 2008, Stanford University, Stanford Humanities Center
- (9) 武内房司、近代先天道在越南的傳播～对越南漢喃研究院所藏民間宗教經典的淺析、先天道歷史與現況研討会、2007年9月22日、香港・中文大学
- (10) 宮田義矢、中国の慈善～積善と博愛、日本宗教学会、2007年9月17日、立正大学
- (11) 小武海櫻子、民国期四川における善堂と宗教結社～合川会善堂慈善会の軌跡を中心に、学習院大学史学会、2007年6月16日、学習院大学

[図書] (計 3 件)

- ① 武内房司、他、明石書店、越境する近代東アジアの民衆宗教～中国・台湾・香港・ベトナムそして日本、2010、384
- ② 菊池秀明、汲古書院、清代中国南部の社会変容と太平天国、2008、344
- ③ 並木頼寿、山川出版社、日本人のアジア認識、2008、83

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)  
学習院大学・文学部・教授  
研究者番号：30179618

(2)研究分担者

並木 頼寿 (NAMIKI YORIHISA)  
東京大学大学院・総合文化研究科・教授  
研究者番号：80155986  
菊池 秀明 (KIKUCHI HIDEAKI)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号：20257588  
今井 明夫 (IMAI AKIO)  
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授  
研究者番号：20203284  
孫 江 (SON KOU)  
静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授  
研究者番号：40329529

(3)連携研究者

胎中 千鶴 (TAINAKA CHIZURU)  
目白大学・外国語学部・教授  
研究者番号：30550818

(4)研究協力者

張 士陽 (Cho Shiyou)  
早稲田大学非常勤講師  
倉田 明子 (Kurata Akiko)  
日本学術振興会特別研究員  
宮田 義矢 (Miyata Yoshiya)  
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程  
小武海 櫻子 (Komukai Sakurako)  
学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻